

部課名		下水道部下水道経営総務課											
課の使命		<ul style="list-style-type: none"> ・市民に安全で衛生的な生活環境を提供するために、下水道事業の進捗管理を行い、効率的で健全な下水道事業経営を行います。 ・下水道部各課の情報を迅速に共有し、関係部署との調整を行い、部内の円滑な業務遂行を図ります。 											
実行計画(年度目標)													
		年度目標設定			中間確認			年度末確認					
順位	計画類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に対する実績値	評価	評価の視点	課題と対応
1	経営改革プラン	「未来につながる下水道事業プラン」に基づく進捗確認及び評価分析	「未来につながる下水道事業プラン」(町田市下水道事業経営戦略)に基づき事業の進捗確認及び経営の健全性、経営の効率性、施設の老朽化の状況など、評価分析を行います。	進捗確認及び評価分析	実施	○	<p>2022年度においては、化石燃料価格の高騰に伴う電力料金の値上げにより、動力費が2021年度と比べて約1億6千万円増加したことから、下水道事業の経営状況に影響が生じました。今後も電力料金の高止まりが想定されることから、この点も踏まえた経営状況の分析評価を行う必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度に実施した各事業の進捗状況を取りまとめました。 ・「経営の健全性」「経営の効率性」「施設の老朽化の状況」について、2022年度決算を踏まえて、総務省が示す経営指標に基づき分析しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の進捗状況や他市との比較等を踏まえて経営分析をまとめ、町田市下水道事業計画評価委員会の評価を受けました。 	<p>2022年度における事業の進捗状況や他市との比較、社会情勢の変化を踏まえて、総務省が示す経営指標に基づいて経営状況の分析を行い、町田市下水道事業計画評価委員会の評価を受けました。</p> <p>この結果、現時点での経営状況は概ね良好であるものの、電力料金等の高騰や老朽化の進行によって、今後下水道使用料の見直しを含め、収益の増進に取り組む必要があることが分かりました。</p>	実施	C	C:目標水準を達成したためです。	引き続き、「未来につながる下水道事業プラン」(町田市下水道事業経営戦略)を基に各事業の評価、経営分析を進めます。
2	個別計画	「町田市公共下水道全体計画」及び「町田市公共下水道事業計画」の策定に向けた基礎調査の実施	東京都策定の「多摩川・荒川等流域下水道整備総合計画」と整合を図り、「町田市公共下水道全体計画」及び「町田市公共下水道事業計画」策定に向け、基礎調査を実施します。	基礎調査	完了	○	<p>6月に「町田市公共下水道全体計画」及び「町田市公共下水道事業計画」の業務委託を契約しました。汚水・雨水の基礎データを収集し予定どおり進捗しています。</p>	<p>「多摩川・荒川等流域別下水道整備総合計画」と整合を図りつつ、「町田市公共下水道全体計画」及び「町田市公共下水道事業計画」の基礎調査を実施します。</p>	<p>「多摩川・荒川等流域別下水道整備総合計画」と整合を図りながら、計画汚水量等の検証や浸水シミュレーションの実施区域の設定をすすめる「町田市公共下水道全体計画」及び「町田市公共下水道事業計画」の基礎調査を完了しました。</p>	完了	C	C:目標水準を達成したためです。	2024年度は、基礎調査の結果を基に「町田市公共下水道全体計画」及び「町田市公共下水道事業計画」を改定します。
3	-	業務効率化のための組織づくり	部内各課の所掌事務の選定等を行い、執行体制を見直します。	新執行体制への移行準備	完了	○	<p>検討会にて、部内各課の事務内容を洗い出し、現状整理を行いました。</p> <p>下水道施設の将来を見据えた維持管理について、老朽化対策や、今後の職員の適正配置など、課題を抽出しました。</p>	<p>今後、下水道施設の維持管理と改築更新の運営手法について、民間連携も含め検討を進めます。</p>	<p>検討会を4回開催し、下水道部の執行体制や施設の維持管理及び改築更新の運営手法などについて検討し、新執行体制の移行準備を進めていましたが、国の動向を踏まえ、さらに民間連携を含めた新執行体制の検討を進めました。</p>	実施	C	C:完了には至りませんが、国の動向を踏まえ目標設定を変えたためです。	引き続き、業務効率化に向けた運営体制や新執行体制を組織づくりを検討していきます。
4	個別計画	下水道BCP(下水道事業継続計画)等の災害対応計画に基づく管理・運用及び訓練や研修の実施	下水道事業継続マネジメント部会を開催し、災害時対応等について検討します。大規模災害が発生した場合でも、下水道が果たすべき機能を速やかに、かつ高レベルで確保するため、部内で訓練や研修を実施します。	訓練や研修の実施回数	4回	○	<p>訓練を以下の2回実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月に訓練(水害編_実働訓練)を実施しました。 ・7月に訓練(水害編_図上訓練)を実施しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・9月に予定していた訓練(地震編_実働訓練)を10月に実施します。 ・11月に訓練(地震編)を実施します。 	<p>訓練を以下の4回実施し、災害対応のスキルの向上を図りました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月に水害訓練(実働訓練)を実施しました。 ・7月に水害訓練(図上訓練)を実施しました。 ・11月に地震訓練(実働訓練)を実施しました。 ・12月に地震訓練(図上訓練)を実施しました。 	4回	C	C:目標水準を達成したためです。	今後も訓練を実施し、大規模災害が発生した際は、下水道が果たすべき機能を速やかに、かつ高いレベルで確保できるようにします。

順位	計画 類型	取組項目	年度目標設定			中間確認		年度末確認					
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
5	個別 計画	下水道事業に関するPRの推進	下水道の仕組みなどについて、ホームページ上での説明、下水道広報紙の発行等により、下水道事業に関するPRを行います。	市民等への情報発信回数	5回	○	<p>下水道事業に関するPRを以下の5回実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月1日に成瀬クリーンセンターさくらまつりにてPRを行い、476人の来場者がありました。 ・7月9日に鶴見川源流交流会に参加し、流域で活動している団体や流域自治体と交流を図りました。 ・8月の台風接近の際に、大雨の時に下水道の利用を控えるよう防災メールにて周知しました。 ・9月10日の「下水道の日」に合わせ、市庁舎1階でパネル展示や動画によるPRを行い504人の来場者がありました。 ・9月10日に下水道PR広報紙「まちだ下水道通信」を発行し、市内約86,500世帯及び市民センター等において8,870部配布しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10月28日に「働く車大集合」のイベントに参加して、PRを実施します。 ・2月に下水道PRに関する記事を、市ホームページに掲載します。 ・3月3日に「まちだECOtoフェスタ」のイベントに参加して、PRを実施します。 	<p>以下8回のPRを実施し、イベントでは1,000人を超える市民や「まちだ下水道通信」は90,000枚を超えて配布し広く市民に周知しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月1日に成瀬クリーンセンターさくらまつりでPRを実施しました。 ・7月9日に鶴見川源流交流会で、流域で活動している団体や流域自治体と交流を図りました。 ・8月に防災メールで大雨時に下水道の利用を控えるよう周知しました。 ・9月4日から8日に「下水道の日」イベントを開催しました。 ・9月10日に下水道PR広報紙「まちだ下水道通信」を発行しました。 ・10月28日に「働く車大集合イベント」でPRを実施しました。 ・3月3日に「まちだECOtoフェスタ」に参加してPRを実施しました。 ・3月30日に成瀬クリーンセンターさくらまつりでPRを実施しました。 	8回	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	引続き、下水道の役割や課題、魅力を多くの市民等に理解してもらえるようにPR活動を実施していきます。

部課名		下水道部下水道整備課											
課の使命		・豪雨による浸水や地震による被災への備えと対策を強化し、災害に強いまちづくりを進め、安心な暮らしを築きます。 ・水路や河川の水質向上を図り、快適な住環境を確保するため、汚水管と合併処理浄化槽による整備を進めます。											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定													
順位	計画 類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進 捗 状 況	中間確認		年度末確認				
							上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括		目標値に 対する 実績値	評 価	評価の 視点
1	重点 事業 プラン	雨水管の整備	浸水被害を軽減するために、雨水幹線や枝線の工事を行います。	浸水対策事業における完了箇所数	2箇所	△	<ul style="list-style-type: none"> ・本町田地区の浸水対策工事については、2022年度から引き続き管渠の整備を行い、順調に進んでいます。 ・鶴間地区の浸水対策工事については、4月から着手していますが、工事に制約があり、工程に遅れが生じています。 	施工管理を適正に行い、また、関係者との工事調整を綿密に行い、年度内に工事を完了します。	<ul style="list-style-type: none"> ・本町田地区の浸水対策工事については、第1期工事を予定どおり完了することができましたが、第2期工事は他企業管の移設工事が遅延したこと等から、年度内に完了することができませんでした。 ・鶴間地区の浸水対策工事については、予定どおり年度内に完了しました。 	1箇所	D	D:取り組みましたが、成果が不十分であるためです。	本町田地区の浸水対策工事は、他企業との工程調整を綿密に行い、2024年度に完了させます。また、引き続き効果的に浸水対策を進めていきます。
2	重点 事業 プラン	雨水管の耐震診断	緊急輸送路等に布設され、かつ、軟弱地盤に埋設され液状化の可能性が高い雨水管の耐震診断を行います。	雨水管耐震診断延長	延べ8.5km	○	7月に雨水管の耐震診断業務委託を契約し、9月から調査に着手しています。	現地調査結果等に基づいて、耐震診断を行います。	鶴川地区において、雨水管の耐震診断を2.6km(延べ8.1km)実施し、耐震化が必要な箇所を抽出しました。	延べ8.1km	C	C:目標水準を達成したためです。	雨水管の耐震化の推進に向けて、計画的に耐震診断を進めていきます。
3	個別 計画	下水道管の改築更新	下水道施設の予防保全型維持管理を計画的に行うため、「管路修繕・改築計画」をもとに、改築工事を実施します。また、詳細設計を発注し、次年度の改築工事に向けて準備をします。	改築工事延長	2.5km	○	8月までに全3件の工事を契約し、順次工事に着手しました。また、詳細設計についても、8月に契約し、設計が進んでいます。	施行管理を適正に行い、年度内に工事を完了します。	鶴川地区、原町田地区等3件の改築工事をあわせて、延べ2.5km実施しました。また、次年度の改築工事のための詳細設計は予定どおり完了しました。	延べ2.5km	C	C:目標水準を達成したためです。	町田市ストックマネジメント計画に基づき、計画的に改築工事を進めていきます。

順位	計画 類型	取組項目	年度目標設定			中間確認		年度末確認					
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
4	個別 計画	污水管と合併 処理浄化槽を 併用した污水 処理の推進	市街化区域においては污水管未整備地区の整備、市街化調整区域においては污水管接続と合併処理浄化槽への切替え促進の併用により、水洗化率の向上を目指します。	水洗化率 (町田市全人口のうち公共下水道への接続や合併処理浄化槽での污水处理をしている人口の割合)	99.56%	○	<p>現在の水洗化率は、99.41%です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予定していた工事について、9月までに契約締結を完了し、8月から順次着手し、順調に進んでいます。 ・6月に合併処理浄化槽への切替え促進のため、合併処理浄化槽設置補助金の案内文書を対象となる76件に送付しました。 ・2022年度から合併処理浄化槽設置の相談を受けていた1件について、7月に切替えを完了し、補助金を交付しました。 ・2022年度に污水管の整備が完了し、2023年度に供用が開始された地区の対象となる37件に「公共下水道(汚水)の供用開始についてのお知らせ」を送付し、公共下水道への接続を促しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・污水管整備工事については工程管理を適正に行い、年度内に工事を完了します。 ・合併処理浄化槽設置について、対象者宅に直接訪問し、切替えを促します。 ・公共下水道に未接続の対象に公共下水道接続の案内文書を送付し、接続を促します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・污水管整備工事については相原地区等6件の工事を予定どおり完了いたしました。 ・合併浄化槽への切替え促進のため、対象者を訪問し、説明を行いました。また、合併処理浄化槽設置補助金を活用して切替えた工事が3件ありました。 ・2023年度に供用が開始された地区の対象となる37件に公共下水道接続の案内文書を送付しました。また、町田市のホームページでも周知を図りました。さらに、公共下水道接続を促す文書を送付するとともに、下水道接続時期を確認するためのアンケートを実施しました。 	99.48%	C	C:目標水準を達成できませんでしたが、取り組みによって水洗化率が向上したためです。	<ul style="list-style-type: none"> ・污水处理の推進に向けて、計画的に污水管整備を進め、継続的な污水管接続の啓発及び合併処理浄化槽への切り替え促進をします。
5	-	業務の効率化	下水道台帳システムの更改に向け、システムを使用する業務を整理し、必要な機能を洗い出します。	下水道台帳システムを使用する業務の整理	完了	○	<p>システム更改にあたり、費用と業務負担の両面から検討を行いました。し尿管理システムは、別途構築する方針で検討しましたが、費用面が課題となりました。また、水洗便所改造工事貸付金については、システムを使用せず、エクセルで管理していく方針としました。</p>	<p>他自治体に下水道台帳システムの機能や運用について、アンケート調査を実施します。し尿処理手数料の管理方法については、費用対効果を考慮しながら、引き続き検討し、方針を決定します。システムで管理している他の業務についても、業務効率化を図るよう、新システムに求める機能を精査します。</p>	<p>システム更改にあたり、費用と業務負担の両面から検討を行い、更改後のし尿処理手数料の管理方法を決定しました。また、町田市と同程度の人口規模の自治体及び下水道専用の台帳システムを導入している自治体10団体に下水道台帳システムの機能や運用について、調査を実施し、新システムに求める機能の整理を行いました。</p>	完了	C	C:目標水準を達成したためです。	<p>調査結果及び今年度検討した結果に基づき、2025年度に新システムにあわせた業務の運用を開始します。</p>

部課名		下水道部下水道管理課											
課の使命		・下水道施設や水路等を計画的に維持管理し、安定的な機能確保を図ることや、下水道の適正な利用方法の啓発を行うことで、衛生的で安心安全な住環境を提供します。											
実行計画(年度目標)													
順位	計画 類型	取組項目	年度目標設定				中間確認		年度末確認				
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
1	個別 計画	ストックマネジメント(※)による下水道事業の推進 (※ストックマネジメント:良好な下水道サービスを継続的に提供するための事業運営)	下水道施設の予防保全型維持管理を計画的に行い、今後増大する維持管理コストの平準化を図るため、基本計画に基づき、「町田市下水道管路施設資産管理第2期調査実施計画」による点検・調査を行います。	劣化状況の点検・調査延長	54km	○	6月に劣化状況の点検・調査の業務委託を契約し、現地での点検・調査を完了しました。	点検・調査の結果を分析し、管路の劣化状況の評価を行います。	下水道管の劣化状況を把握するため、予定どおり54kmの区間でTVカメラ調査、目視等の点検調査を実施し、評価、分析を行いました。その結果、全体の12.5%で劣化が進行していることを確認しました。	54km	C	C:目標水準を達成したためです。	引き続き、2024年度以降も劣化状況を把握するための業務を実施し、予防保全型維持管理に努めます。
2	個別 計画	下水道管の腐食の恐れがある箇所 の点検の実施	下水道管きよの腐食の恐れがある箇所については、法令に基づき、5年に一度の点検を実施し、機能維持に努めます。	点検箇所数	27箇所	○	下半期に行う点検業務の実施に向けて、業務計画書の内容を確認しました。	点検を実施し、点検結果の取りまとめを行います。	27箇所の点検箇所について、現場での点検を完了し、点検結果をとりまとめました。点検の結果、管渠の機能が維持されていることを確認できました。	27箇所	C	C:目標水準を達成したためです。	引き続き、2024年度以降も定期的な点検を実施し、機能の維持に努めます。
3	個別 計画	グリーストラップの適正な 維持管理方法の周知	油脂の流出による污水管の閉塞を防ぐために飲食店などを訪問し、グリーストラップの点検、清掃などの適正な維持管理方法を周知していき、油脂を起因とした詰まりによる管清掃延長を減らします。	管清掃延長	3.92km 以内	○	6月に油脂点検調査を実施し、油脂が付着しているエリアを把握しました。この調査結果を基にグリーストラップ(※)の適正な維持管理方法の周知を行う飲食店を抽出しました。 (※グリーストラップ:主に飲食店等に設置される、油脂等を下水道へ流入させないための装置)	上半期に抽出した飲食店を対象に、12月までに店舗訪問しグリーストラップの適正な維持管理方法を周知します。また、周知後には油脂点検調査を実施し、油脂の堆積状況を確認の上、周知効果を検証します。	・6月の油脂点検調査の結果、油脂の付着が多い管きよ付近の飲食店など26店舗を抽出し、店舗訪問を行い、グリーストラップの適正な維持管理方法を周知しました。さらに、町田市内に新規開業したラーメン店10店舗に対し店舗訪問を行い、グリーストラップの適正な維持管理方法を周知しました。その結果、管清掃延長を3.5kmに抑えることができました。	3.5km	C	C:目標水準を達成したためです。	引き続き、目標値内に収まるよう、飲食店等に向けたグリーストラップの適正な維持管理方法の周知を実施します。
4	個別 計画	「水路修繕計画」の策定	水路の効率的かつ効果的な維持管理を推進するため、2022年度に作成した水路台帳を基に「水路修繕計画」を策定します。	計画の策定	完了	△	・2023年度に策定予定であったスケジュールを見直し、2023年度に点検要領の策定と対象水路の点検を行い、2024年度に対象水路の点検と水路修繕計画の策定を行うことになりました。 ・9月に水路等点検調査及び点検要領策定業務委託を契約しました。	点検要領を策定し、要領に基づき点検を実施します。点検結果を基に、水路構造物の劣化状況を取りまとめます。	点検要領の策定を予定どおり完了しましたが、予定していた対象水路の点検を実施することができず、水路修繕計画を策定することができませんでした。	未完了	D	D:取り組みましたが、成果が不十分であるためです。	引き続き、2024年度以降も水路修繕計画の策定に向けて、対象水路の点検を進めます。

順位	計画 類型	取組項目	年度目標設定			中間確認		年度末確認					
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評 価	評価の 視点	課題と対応
5	個別 計画	(業務効率化) 文書電子化 の検討	紙媒体で保存や処理がされている文書のあり方を検討します。電子化することで、業務の効率化が見込まれる文書を洗い出します。	文書電子化の 検討	完了	○	<ul style="list-style-type: none"> 紙媒体で処理を行う各業務について、電子化することにより効率化が図れる業務を洗い出しました。 現在紙媒体で受付している申請について、電子申請に切り替えが可能か検討を行いました。 	<ul style="list-style-type: none"> 業務効率化に向けて、洗い出した紙媒体業務の電子化や、紙媒体での申請の電子化について、引き続き検討します。 公共ますの電子申請について、今秋に試験施行を実施します。 	<ul style="list-style-type: none"> 文書電子化について、検討会を計4回開催しました。その中で、課内アンケートを実施するなどして、紙媒体から文書電子化が可能な業務を抽出しました。 新たな取り組みとして、公共ますの電子申請を試験施行しました、申請者に向けて説明会(15社参加)を開催し、1月下旬から申請の受付を開始しました。 	完了	B	<ul style="list-style-type: none"> B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、文書電子化のルールを検討し実施します。 引き続き、他の業務についても電子申請の導入を検討します。
6	個別 計画	課内研修の 実施	課全体での協体制のもとに効果的・効率的な業務を推進するために、職員が身に付けるべき内容を検討し研修を実施します。	研修の 実施回数	1回	○	<ul style="list-style-type: none"> 研修を以下の1回実施しました。 7月に、水害等の緊急対応時に使用する土のう作成や積み方の研修を実施し、9人が参加しました。 業務上で対応に困った事案について課内アンケートを行い、業務対応力向上に必要な課内研修の内容を検討しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 課内業務の知識を深めるため、他係業務の現場見学や電話対応力向上のための研修を実施し、効果を検証します。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修を以下の3回実施したことにより、課内の業務知識を深め、課全体の対応力を強化することができました。 7月に、水害等の緊急対応時に使用する土のう作成や積み方の研修を実施しました。 10月に全課員参加で電話対応力を向上するための研修を実施しました。 11月に担当外の業務についても基礎知識を広げるため、他係業務の現場見学研修を実施しました。 	3回	B	<ul style="list-style-type: none"> B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、効果的・効率的な研修を実施し、職員の能力向上に努めます。

部課名		下水道部水再生センター											
課の使命		・下水処理施設の計画的な点検・調査・改築更新の実施、耐震化の促進により施設の機能を維持することで、市民が快適に生活できる環境を整えます。 ・再生可能エネルギーの活用や下水の高度処理の導入など、環境負荷の少ない処理場運営を進め、地球環境の保全と循環型社会へ貢献します。											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定				中間確認				年度末確認					
順位	計画類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に対する実績値	評価	評価の視点	課題と対応
1	重点事業プラン	成瀬クリーンセンターの耐震化	2022年度から行っている汚泥処理棟耐震補強工事(2022～2024年度)を引き続き実施します。	進捗率	81%	○	2022年度から引き続き汚泥処理棟の耐震補強工事を進め、地下構造物の耐震化が予定どおり完了し、順調に進んでいます。	引き続き施工管理を適正に行い、2023年度分の工事を完了します。	地下構造物の耐震化は予定どおり完了しましたが、建物の耐震補強材の仕様変更が生じ工事量が増加したため、工事全体の進捗率は70%となりました。	70%	D	D:取り組みましたが、成果が不十分です。	引き続き施工管理を適正に行い、2024年度に汚泥処理棟の耐震補強工事を完了します。
2	重点事業プラン	鶴見川クリーンセンターの耐震化	①2022年度末に開始した水処理棟の耐震診断を実施します。 ②焼却炉棟の耐震補強工事(2023年～2024年度)に着手します。	①診断 ②工事	①完了 ②着手	○	①4月に水処理棟の耐震診断業務委託を契約し、現地調査により採取した検体のコンクリート強度を解析し、調査を進めています。 ②焼却炉棟の耐震補強工事については、10月の契約に向けて手続きを進めています。	①採取した検体の解析結果に基づいて、耐震診断を行います。 ②焼却炉棟の耐震補強工事に着手します。	①水処理棟の耐震診断を計画どおり実施し、耐震補強が必要な箇所の抽出が完了しました。 ②焼却炉棟の耐震補強工事を、2024年3月に着手しました。	①完了 ②着手	C	C:目標水準を達成したためです。	①水処理棟の耐震補強工事に向けて、耐震計画を策定します。 ②2024年度に焼却炉棟の耐震補強工事を完了します。
3	重点事業プラン	鶴川ポンプ場の耐震化	2022年度末に開始した耐震診断を実施します。	診断	完了	○	4月に鶴川ポンプ場の耐震診断業務委託を契約し、現地調査により採取した検体のコンクリート強度を解析し、調査を進めています。	採取した検体の解析結果に基づいて、耐震診断を行います。	鶴川ポンプ場の耐震診断を計画どおり実施し、耐震補強が必要な箇所の抽出が完了しました。	完了	C	C:目標水準を達成したためです。	耐震補強工事に向けて、耐震計画を策定します。
4	個別計画	ストックマネジメント計画(第Ⅱ期)に基づいた下水道事業の推進	設備の詳細調査を行い、劣化状況、重要度に応じた修繕計画を作成することで、維持管理コストの平準化を図っていきます。	詳細調査の件数	10件(第Ⅱ期累計20/50件)	○	予定どおり汚泥掻き寄せ機、蓄電池盤など3件の設備について、劣化状況の詳細調査を完了しました。 調査の結果、2件は設備の機能が確保できていること、1件は設備の機能が低下していることを早期に把握することができました。	下半期に予定している7件の詳細調査を計画的に実施し、設備の劣化状況を把握し、修繕計画に反映します。	設備の劣化状況の詳細調査を予定どおり10件実施し、機能が低下し修繕が必要な設備が2件あることを確認しました。また、軽微な劣化があった1件については、調査時に補修を実施しました。	10件(第2期累計20/50件)	C	C:目標水準を達成したためです。	引き続き、劣化状況を調査し、計画的な維持管理を進め、コストの平準化を図っていきます。
5	個別計画	下水処理水の水質向上	①老朽化した散気装置(※1)を交換することで効率化を図ります。 ②2021年度から実施しているB-DASH技術に関する自主研究を引き続き実施している6項目のうち、1項目の完了を目指します。 ※1 汚水を処理するため、微生物の活動に必要な空気を反応タンクに送り込む装置。	①高効率散気装置の導入率 ②自主研究完了項目数	①39% ②1項目	○	①6月に、散気装置交換の物品購入契約を締結しました。 ②水処理から発生する一酸化二窒素の排出量について、データの取得を行いました。	①納入後交換を実施します。 ②下半期も引き続きデータの取得を行い、一酸化二窒素の排出量を把握します。	①3月に鶴見川クリーンセンターの1池について散気装置の交換を実施しました。その結果、高度処理施設を除いた18池(成瀬・鶴見川合計)のうち7池について高効率散気装置を導入することができました。 ②B-DASH設備から発生する一酸化二窒素排出量を測定してデータ取得を行いました。その結果、従来の高度処理(A2O法)と比較して、運用に係るコストを抑えつつ、一酸化二窒素の排出量を同程度にすることができていることを確認できました。	①39% ②1項目	C	C:目標水準を達成したためです。	①今後も、下水道事業経営戦略の10ヵ年計画に基づき、散気装置の交換を実施します。 ②引き続き、コスト削減及び更なる水質の向上を目指した調査を継続し、最適条件の確立と評価に向けた研究を継続して行います。

順位	計画 類型	取組項目	年度目標設定			中間確認		年度末確認					
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
6	-	安全対策の推進	安全対策に関する意識を向上させる目的で、職員に対し研修を実施し、安全対策に関する専門的知識・技能を習得します。	研修の実施回数	4回	○	<p>研修や講習会を以下の3回実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月に鶴見川クリーンセンターで「空気呼吸器取扱研修」を実施しました。 ・6月に成瀬クリーンセンターで「電気設備に関する安全講習会」を実施しました。 ・8月に鶴見川クリーンセンターで「電気設備に関する安全講習会」を実施しました。 	<p>以下の研修を実施し、安全対策に関する専門的知識・技能を習得します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成瀬クリーンセンターで「酸素欠乏及び硫化水素危険作業に関する講習会」を実施します。 ・鶴見川クリーンセンターで「VR技術等を活用した安全体感研修」を実施します。 	<p>研修や講習会を以下の5回実施し、職員の安全意識の向上と、安全対策に関する知識の習得を図りました。</p> <p>鶴見川クリーンセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月 空気呼吸器取扱研修 ・8月 電気設備に関する安全講習会 ・11月 VR技術等を活用した安全体感研修 <p>成瀬クリーンセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月 電気設備に関する安全講習会 ・2月 酸素欠乏及び硫化水素危険作業に関する講習会 	5回	C	C:目標水準を達成したためです。	今後も安全対策に関する研修会を実施し、専門的知識・技能の習得、意識の向上を図ります。
7	個別計画	町田市下水道事業継続計画(BCP)に対応した組織の構築	町田市下水道事業継続計画(BCP)について研修を実施し、計画の実行性を高め、災害時に対応した施設運営ができるようになります。	研修の実施回数	2回	○	<p>以下の研修を2回実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月に総合水防訓練(図上訓練)を行い、新防災システムの入力訓練を行いました。 ・8月に風水害知識に関するe-ラーニングを受講しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成瀬クリーンセンターで災害停電時対応訓練を実施します。 ・鶴見川クリーンセンターで大雨時対応訓練を実施します。 	<p>研修を以下の4回実施し、災害時に対応した施設運営を行うための組織の構築を図りました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月 総合水防訓練(図上訓練) 新防災システムの入力訓練 ・8月 風水害知識に関するe-ラーニング受講 ・2月 大雨時対応訓練(鶴見川) ・3月 停電対応訓練(成瀬) 	4回	C	C:目標水準を達成したためです。	今後も災害時に迅速な対応ができるよう訓練を行っていきます。
8	-	(業務の効率化) 下水処理場の運営における環境負荷低減の促進	下水処理場の効率的な運営のため、環境負荷の低減に向けた方策に関する情報収集を行い、それらについての検討・調査・研究を進めます。	検討	実施	○	<p>環境負荷の低減に関する方策として、電力に関する情報収集を行い、以下の検討を開始しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鶴見川クリーンセンターで使用する電力について、町田市バイオエネルギーセンターからの自己託送(※2)導入に向けて関係部署との調整を開始しました。 ・鶴川ポンプ場で使用する電力について、町田市バイオエネルギーセンターで発電した電力を2024年度から利用する検討を開始しました。 <p>※2 遠隔地にある発電所(町田市バイオエネルギーセンター)から直接電気を使用する施設(鶴見川クリーンセンター)に送電して電気をを使用すること。</p>	<p>電力の自己託送に係る関係部署との調整や、町田市バイオエネルギーセンターで発電した電力の利用について検討を進めます。</p>	<p>鶴見川クリーンセンターおよび鶴川ポンプ場で使用する電力を、町田市バイオエネルギーセンターからの自己託送導入開始に向けて関係部署との調整を図り、2024年度から実施します。</p> <p>これにより、水再生センターの温室効果ガスの排出量、および動力費を削減します。</p>	導入実施	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	引き続き、環境負荷の低減に関する方策を検討していきます。